

2018年は明治維新150年

来嶋又兵衛 ゆかりの地をたずねて

激動する幕末、長州藩が日本の歴史の表舞台に登場するきっかけとなったのは、京都における「禁門の変」でした。幕府はそれを口実に全国の藩を動員し、二度にわたって長州征伐を目論むのです。ところが征伐どころか、15万の軍勢が4千人余の奇兵隊・諸隊に翻弄され、撤退する羽目に追い込まれました。幕府の威信は地に落ち、一気に倒壊の道をすすむことになるのです。

来嶋又兵衛 誕生之地

山陽小野田観光協会

時代を見据える目、実行力をもつ男 来嶋又兵衛

来嶋又兵衛は、高杉晋作が奇兵隊を創るや、呼応して即座に、自らも遊撃隊を組織しています。それは彼が、時代の発展方向が見える、実行力のある人物であったことを示しています。彼は、今の小野田駅近くの高須(長門国厚狹郡西高泊村)に生まれました。無給通組の下士・喜多村政倫の次男として、18歳で来嶋家に養子にいくまで、多感な青少年時代をすごしています。彼のひととしての基本は、高須の地で培われたことを、重くみる必要があります。「来嶋会」の野村玉世さんは、高須は水がよく井戸や池が多く、農業とともに酒造りの家があったと語っています。商業流通にともなう、人や情報の行き来が盛んだったことをうかがわせます。



▲うちにも井戸が残っていると野村さん

来嶋又兵衛の思い、受け継ぐ「来嶋会」

高須の厳島神社の境内に、「来嶋又兵衛生誕地」の碑が建っています。実際に生まれた家は、神社の北側150メートルの地にあったとされ、現在は田んぼとなったあぜに、「喜多村家の跡地」の碑が建っています。分かりにくいですが、住人に在り場所を聞くと、親切に案内してくれます。



▲高泊のバス停そばに厳島神社があり、そこに又兵衛生誕地の碑が建っている

地元の人たちは、来嶋又兵衛の事跡を顕彰するために、碑を建て守ってきました。「来嶋会」も、その思いをしっかりと受け継いでいこうと、20年前から婦人部の集まりの名称を変えて活動しているのです。



▲又兵衛が生まれた家はすでになく、その跡地に建つ 碑を示す農業者のNさん



▲又兵衛生誕地の碑

(文・写真:田中 信)